

2. 情報館本館施設の概要（令和6年4月1日現在）

開館	平成8年7月27日
位置	厚岸郡厚岸町宮園1丁目1番地
建物構造	鉄筋コンクリート造2階建
建設面積	1階 996.9 m ² 2階 433.14 m ² 計 1,428.49 m ²
事業費	平成6年度 設計委託 20,394,000 円 平成7年度 本体工事 604,177,400 円 付帯工事 106,553,500 円 工事監理委託 4,944,000 円 備品購入費 59,997,000 円 図書・視聴覚資料 40,258,000 円 用地費 12,800,000 円
設備	一般図書コーナー45,000冊収容／児童図書コーナー10,000冊収容 閉架書庫 55,000冊収容／雑誌114誌（本館96誌・分館18誌） 新聞7誌 おはなしコーナー／紙芝居舞台 2台 検索コーナー／利用者用資料検索用システム（OPAC）端末1台 情報検索用パソコン1台 情報プラザ／飲食ができる談話室。 利用者用資料検索用システム（OPAC）用端末1台 AVコーナー／6ブース（DVD機器5台 DVD兼LD機器1台 VHS機器3台 カセット1台 レコードプレーヤー1台） コンピュータ実習室／パソコン8台 （視覚障害者用音声ナビゲーター・ソフト付） 視聴覚室／階段式固定席 50席 プロジェクター2台 DVD、BD機器 35mm映写機2台・16mm映写機2台・LD機器・VTR機器・CD機器 ・スライド映写機2台・レコードプレーヤー 会議室／40人規模の会議の開催が可能。 視聴覚室と同様の装置の使用が可能。 ※視聴覚室・会議室同時使用／壁の移動で120人規模の映画会、講演会の開催が可能。ピクチャーレール ギャラリー／展示パネル12枚
受賞	平成9年2月 北海道赤レンガ建築賞（北海道） 平成9年6月 照明普及賞（社団法人照明学会） 平成14年5月 公共建築賞優秀賞（社団法人公共建築協会） 令和5年2月 第22回「JIA25年賞」受賞 （公益社団法人日本建築家協会）

3. 情報館の特徴

- 1 電算化により本館、分館、図書館バスの資料を一元管理。
- 2 地域の活性化を図るため、利用される情報館を目指す。
釧路管内の住民に利用を開放。
- 3 電子情報の充実
 - (1) CD-ROM検索パソコンを無料開放。(開館から平成 27 年度まで)
 - (2) 大型画面による電子掲示板で行事、催し物案内。
 - (3) マルチメディア情報(厚岸町の情報)端末の設置。
(開館から平成 20 年度まで)
 - (4) インターネットの無料開放(1日1時間まで)。
 - (5) ホームページ・SNSによる情報発信。
- 4 視聴覚資料の充実
 - (1) CD、DVD・BD(貸し出し可能なもの)、DVD、カセットブックの貸出。
 - (2) AVブースでのDVD、BD、LD、CD、ビデオ、カセットの個人視聴。
- 5 視聴覚室の充実
 - (1) 35mm映写機、16mm映写機をそれぞれ2台備え、各種映画会を実施していたが、平成 29 年度に 35mm映写機1台が故障となり、映写機での映画を断念。修理については、見通しが立っていない状況である。
 - (2) DVD、BD、LD、ビデオ、パソコンをプロジェクターでスクリーンに表示することができる。平成 28 年 12 月からHDMI形式での利用が可能となる。
 - (3) プロジェクター、スライド映写機などで各種講演会に対応できる。
 - (4) 階段式に固定席 50 席を設置し、ゆったりと映画を楽しむことができる。
 - (5) 視聴覚室、会議室の境界壁の移動で 120 席の映画会、講演会が開催可能。
- 6 コンピュータ実習室の設置
 - (1) 町民の情報リテラシー教育を実施。8 台のパソコンでIT講習(初心者向けパソコン教室、ワード、エクセル、年賀状など)の講習会を開催。
 - (2) 視覚障がい者が自ら使用することができる、音声ナビゲーター・ソフトのあるパソコン(2台)を設置。
- 7 資料の充実
 - (1) 新刊見計らい送本による、迅速な新刊本の提供。
 - (2) 豊富な新聞、雑誌の購入。新聞 7 紙、雑誌 114 誌(本館・分館)。

4. 情報館の電子サービス

1 図書館管理システムの電算化

(1) 本館、分館、図書館バスでの業務の電算化による資料の一元管理

- ① 本館と分館 クラウドサーバーによりデータを一括管理。
- ② 図書館バス 本館とオンラインにより、現地で貸出業務等ができる。

(2) 新刊見計らい送本システムの導入による迅速な新刊提供

① TRCマークの購入。

利点：受入資料については、TRCマークのダウンロードによりデータを作成。またTRCが作成した書誌データを、図書館システムとの連携により検索することができる。

② 新刊送本システムの導入で、新刊図書が毎日、日本出版販売（日販）から情報館へ直送されてくる。

利点：一般書店と同じ速さで新刊図書が納品され、現物を見て選書できる。①のTRCマークの購入と相まって、新刊図書を発行後1～2週間で利用者に提供することができる。

(3) TOCCATAマークによる視聴覚データを使用

CDの現物をTOCCATAに送付ののちCDデータが作成されSaaSシステムからインターネット経由でデータを抽出しCDの目録を作成する。

利点：収容曲名、演奏者名、作曲者名などで検索できる。

2 インターネットの利用

(1) 利用者開放

- ① 検索コーナーにあるパソコン1台（Windows）を利用者に開放。
- ② 光回線を使用。
- ③ インターネット利用は無料。
- ④ Wi-Fi 無料開放（申込み時 ID、パスワード発行）。

(2) 職員の利用

- ① 事務室内のパソコンでレファレンス用として利用。
- ② 道立図書館をはじめとして、道内公共図書館の蔵書検索、相互貸借。
- ③ 北海道新聞社、ニフティサーブと法人契約。
- ④ 北海道新聞記事の検索、ニフティは人物、雑誌記事等の検索に利用。

3 ホームページ・SNSの開設

(1) 情報館のPRと利用者サービスを目的にホームページを開設

- ① 新着図書を受入から6週間表示。
- ② 情報館からのお知らせ、行事や展示の案内。
- ③ スタッフ日記（毎週更新）。
- ④ SNS（Facebook・Instagram・X）での行事や展示等の情報発信。

- 4 電子図書館の開設（令和4年度から）
 - (1) 一般書、児童書の電子書籍を提供。
 - (2) 行政資料や郷土資料のデータを電子書籍として提供。
 - (3) 町内の小中学校の教師及び児童、生徒にIDとパスワードを発行し、学校で使用しているタブレット端末から利用できる。

- 5 インターネットによる資料検索システム
 - (1) 情報館ホームページにアクセスして情報館資料を検索することができる。
 - ① 図書資料については、書影（表紙画像）を表示。
 - ② 予約や貸出・予約状況照会、お気に入りリストを表示。

- 6 利用者用資料検索システム（OPAC）端末の設置
 - (1) タッチパネル方式で利用者資料検索システム（OPAC）端末を設置。

- 7 検索コーナー
 - (1) 検索コーナーに利用者用資料検索システム（OPAC）とインターネット用パソコン各1台を設置。
 - (2) インターネットを無料（1日1時間まで）で利用でき、Web上の情報データを検索できる。
 - (3) タブレット端末1台設置し、電子図書館を閲覧できる。

- 8 情報プラザの情報端末
 - (1) 情報館玄関横に飲食、歓談自由なスペース（情報プラザ）をつくり、検索コーナーに利用者用資料検索システム（OPAC）端末を設置。

- 9 玄関風除室電子掲示板
玄関に情報館案内として43型デジタルサイネージを設置。プレゼンテーションソフトで行事案内、図書館カレンダーを放映。

- 10 視覚障がい者用音声ナビゲーター・ソフトを入れたパソコンの設置
コンピュータ実習室の2台に視覚障害者用音声ナビゲーター・ソフトを導入。視覚障がい者が自分自身でパソコンを操作し、インターネットなどを利用できる。

- 11 コンピュータ実習室
8台のパソコンで町民向けの各種講座を実施。初心者向けIT講座（ワード、エクセル、年賀状講座など）、応用編等を実施。